

# カモシカ食害対策の一考察

上松・南小川担当区 〇古沢 進  
寺沢 茂雄

## はじめに

当担区部内（小川入国有林100は 1.2.3林小班）のヒノキ天然林施肥試験地における稚樹発生箇所プロット内で、施肥区と無施肥区の間にかモシカによる食害の差が見られる。

また、当署管内のヒノキ新植地においても天然稚樹よりも植栽木のほうがより多く食害を受けている。

このような状況の中でカモシカの味に対する嗜好がどのようなものなのか、どのような因子が働くのか、これらについて調べることにより、現在行われている「カモシカ防護柵」などの、カモシカをヒノキに近づけないようにする考え方ではなく、カモシカが食べたくないようなヒノキを造り、カモシカがヒノキに近づかないようにできないものかと考え調査したものである。

## 1. 食害状況の現地調査

小川入国有林100は 1.2.3林小班のヒノキ天然林施肥試験地における稚樹発生箇所プロット（1m×2m）は、ひとつのプロットを施肥区と無施肥区に分けてあり、食害状況については、表-1のように施肥区の方が被害が多いことが認められた。

表-1 ヒノキ天然稚樹施肥試験地の食害状況

項目 試験地	稚樹本数	食害本数	被害率%	適用
施肥区	119	48	40	
無施肥区	134	24	18	

## 2. カモシカの飼育現場への聞き取り調査

### (1) 大町山岳博物館

サツマイモ、ニンジン、キャベツ、ビートパルプ、リンゴのしぼりかす、草食用獣用のペレット、鈹塩を餌として与えている。

### (2) 日本カモシカセンター

自然採取による餌料を主とし、そのほかに、ニンジン、固形ペレット、干し草、鈹塩を餌として与えている。

\*自然採取による飼料・・・・・・広葉樹の葉

\*鈹 塩・・・・・・・・・・ミネラルを含んだ塩

## 3. カモシカの嗜好調査因子の決定

カモシカの嗜好について、その因子は数多く考えられるが、草食獣に絶対必要な塩分に絞って調査を行った。

## 4. カモシカの飼育現場での摂食実験（大町山岳博物館）

(1) サツマイモ、ニンジン、キャベツの生のもの、湯でたもの、3%の塩分で塩湯でしたものを与えた実験。

(2) サツマイモ、ニンジン、キャベツの生のもの、12時間3%塩分で塩漬けたもの、12時間10%塩分で塩漬けたものを与えた実験。

### 結果

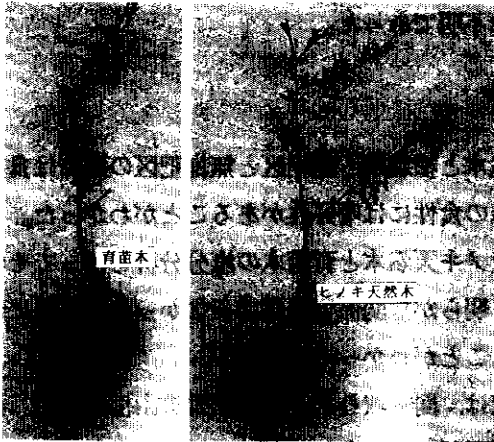
(1) (2)とも生のものだけしか摂食しなかった、これは(1)湯でたものに対する摂食習慣が無かった。(2)日常、鈹塩が与えられているので十分塩分が補給されているものと考えられる。

## 5. カモシカ被害地における実験

ヒノキ天然木、育苗木を筋条にそれぞれ10本植え込み18時間後に調査した。

### 結果

天然木8本、育苗木10本(100%)であった。食害の状況は写-1に見られるように、育苗木の被害が大きい。



写-1 食害の状況

## 6. ヒノキ天然木と育苗木の成分分析

### (1) 成分分析の方法

煮沸法・・・試験体（葉）を細かく切断し蒸留水で煮詰めて測定した。

### (2) 測定した成分・・・塩分濃度・PH

表-2 分析結果

測定種別 \ 験体別	天然木	育苗木	適用
塩分濃度	0.01%	0.01%	
PH	6.55	5.71	

\*塩分濃度・・・両方とも最低の値を示し差はなかった。

\*PH・・・・・・若干差が認められた。カモシカの酸に対する嗜好性については実験することができなかった。したがってPH測定値とカモシカの嗜好関係についても解明できなかった。

## 7. 文献による調査

カモシカの食性は季節によって異なり、栄養値の高い植物を選んで採食している。酸味に対する嗜好性については不明であった。

## 8. まとめ

- (1) 現地調査により、ヒノキ天然木と植栽木、施肥区と無施肥区の間には食害の差があった。また、カモシカの食性には嗜好性があることがわかった。
- (2) 塩分に関する嗜好実験からヒノキ天然木と育苗木の塩分分析を行ってその関係を見い出だそうとしたが、明らかな関係は発見できなかった。PHについては若干ではあったが差があることがわかった。
- (3) カモシカの嗜好に対する研究は、聞き取り調査をした大町山岳博物館、日本カモシカセンターでも、まだ不明の点が多かった。

## おわりに

今回の実験調査は、施肥区・、無施肥区の試験地において食害に差があったことから、カモシカの嗜好性を究明することで、被害防止の方策が図れないだらうか、。物理的対策には限度があり、これをカモシカの生理的な面から解明できないかと着目し試みた。

今後においてはカモシカが忌避する要因のある植物とヒノキ植栽木との関係を調べ、カモシカの嗜好が『匂い』『味』『目』によるものか、たま『獣体』そのものが要求するものなのか等の因子を究明し、カモシカが寄り付かないヒノキを造る方策を確立したい。